

コラム

地域運営リーダーのための8箇条

NPO 法人きらりよしじまネットワーク 高橋 由和 氏

リーダーよ、覚悟しろ

地域づくりのリーダーは、様々な場面で住民の矢面に立つことになります。そういう意味では住民にすべてを晒すというある程度の「覚悟」が必要と言えるでしょう。特に、地域活動に参加しない反対論者は多々出てきます。直接リーダーに伝えず、陰で言う人もいるでしょう。地域での生活に便利とはいえないが不便さを感じていない人は、地域に無関心になりがちです。100人の味方に100人の敵です。100人の敵に対して苦勞するより、100人の味方をどのように増やしていくかを考えた方が気持ち的にも楽に活動を展開できると思います。求められる理想のリーダー像は様々ありますが、自分には何が足りないのかを自覚し、自身の改善もしていかなければならないでしょう。

リーダーよ、仲間をつくれ

地域づくりと一緒に語れる人は何人いるでしょうか。この地域を元気にしたい、何とかしたいという思いを共有する仲間が何人いるでしょうか。極端な話、仕事を休んでも手伝ってくれる仲間や、協力者が何人いるかということです。

地域づくりは一人ではできません。地域を考える熱い想いの集合体が地域を変えていくのです。そして、リーダーと同じ気持ちで支えてくれる仲間と一緒に活動することによって、お互いに想いや活動を共感・共有する環境ができていきます。

リーダーよ、苦手な人は周りからアプローチせよ

地域活動には多くの住民の巻き込みをしなくてはならないという責任感や使命感から、苦手な人に対しても参加を促して苦勞している人はいないでしょうか。

誰にだって苦手な人もいれば、嫌いな人もいます。でもそれは本人だけの問題であって、苦手な人も嫌いな人も、自分以外の周りの人とは上手くやれている場合もあります。苦手な人を地域活動に巻き込むときは、先にその人の周りの人とつながりましょう。つながった人のネットワークを活かして外から参加を促してもらいましょう。

リーダーよ、管理をおこたるな

地域活動や事業に必要な「ヒト・モノ・カネ・情報」は、調達～運用～成果～改善の流れで、必要なものを必要な時に、必要な分だけ回すことを意識しましょう。資源は湯水のように湧いてくるわけではないので、ムダ・ムリ・ムラを抑えて、貴重な資源をうまく運用するよう努力しましょう。

また、新しい資源を創出する視点も必要です。よく「うちの地域は資源がない」ということを耳にしますが、地域のどのような資源を地域づくりの柱にしていくかは、地域づくりの大きなポイントです。資源の再発見活動や、見えない資源に対して付加価値の付く活動をすることで「資源化する」という考え方が必要です。

リーダーよ、住民の新しい居場所をつくれ

地域の中でも常に同じ人とつながっていれば、居心地がよく安心して、コミュニケーションも取りやすくなりますが、それだけでは新しい発想は生まれません。地域の中に世代を越えて語れる場づくりは必要です。スポーツや趣味の集いなど、そこに人が集まり新しい交流が生まれる居場所を積極的につくりましょう。事業に参加してくれた住民とスタッフが、振り返りとして意見交換する時間を設けるのも一つの居場所になります。人間心理や集団心理の知識も身につけてきます。

リーダーよ、今はやらない勇気をもて

地域が動き出すと、あれもこれもとやりたいことが出てきます。特に補助金の申請時は要注意です。無理をして体制をつくり実行しても、成果が出ないこともあります。一過性の事業に労力と資金を充てるのではなく、チャンスと思っても焦らないで、体制と仕組みが出来てから取り組みましょう。時には、「今はやらない」の判断も必要です。

リーダーよ、情報に敏感であれ

地域づくりの中で求められるのは常に「変化」です。社会的変化、自然現象の変化、世の中は変化し続けています。状況が変化する中で私たちにも変化が必要です。さもないと地域は社会から置いていかれます。変化を感じ取るには、情報収集が欠かせません。社会の潮流や兆しに気づき、その時々にあった地域づくりを考えましょう。

リーダーよ、学びなさい

情報と同じように、世の中は常に変化していることを念頭に置きましょう。その変化の中で意思決定をしていくわけですから、正しい情報、正しい学びが求められます。古い知識で判断して間違えることを防ぐためにも、自分自身を更新する癖をつけましょう。

学びの環境は様々です。情報源もインターネットや書籍を読むだけではなく、地域の様々な現場から、或いは交流など、学びの場を自分でつくることを心がけましょう。